

# 宝珠山 如意寺だより

春号

(平成27年4月1日発行)

## 春〜初夏の花暦

6月			5月			4月		
下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬
紫陽花	山紫陽花	沙羅	匂い蠟梅	ふたりしずく	一華	羅生門葛	みつばつじ	碗草
丘虎尾	螢袋	山躑躅	但馬田村草	白糸草	宝鐸草	二輪草	翁草	狸々袴
花茗荷	岩煙草	笹百合	山法師	浜梨	花筏	山吹	丹頂草	馬酔木
花菖蒲	麒麟草	岩絡み	西洋石楠花	丁子草	海老根	都忘れ	稚児百合	日向水木
	京鹿子			山椒薔薇	芋環	雪餅草	石楠花	片栗
				鳴子百合	山芍薬	九輪草	延齡草	木蓮
							一人静	鯛釣草
								桜

**柴灯大護摩供**  
四月一日(水)

午前10時半  
柴灯護摩 厳修

● 家内安全  
● 厄災消除  
● 商売繁昌  
● ほか

受付アプトで  
随時お申し込み下さい。

午後一時四十分  
花説法(本堂)

午後二時四十五分  
もちまき(本堂前)



## お参りの仕方



- お寺での一般的なお参りの仕方です。  
儀式的なものとは堅苦しく考えないで下さい。
- 山門で一礼してくぐり、手水舎で手、口を清めます。
  - 鐘楼で鐘を撞く時は、強く打ち過ぎないように心を込めて撞いて下さい。(鐘には、その響きを聴く者には一切の苦から逃れて、悟りに至る功德があるとされています。)
  - お堂では入り口で鰐口を鳴らし手を合わせて堂内に入ります。できれば、お帽子はお取り下さい。線香、ろうそく、(お水)をお供え下さい。(ろうそくは一人1本、線香は原則として一人3本【仏・法・僧】です。)
  - お賽銭を入れ、合掌してお祈り下さい。お寺ですので、拍手は打ちません。

### <如意寺の主な仏様の真言> ※特に、この真言をお唱えする必要はありません。

不動堂	不動明王	ノウマク・サマダ・バザラダシ・センダマカロ シャダ・ソワタヤ・ウンタラタ・カンマン
	薬師如来	オン・コココロ・センダリ・マトウギ・ソワカ
本堂	毘沙門天	オン・ベイシラ・マンダヤ・ソワカ
	十一面観音	オン・マカ・キャロニキャ・ソワカ
庫裡	阿弥陀如来	オン・アミリタ・テイゼイ・カラ・ウン
地藏堂	地藏菩薩	オン・カカカビ・サンマエイ・ソワカ
	弘法大師	なむだいしへんじょうこんごう 南無大師遍照金剛 ※いつでもお唱え下さい。

※近親の方が亡くなられても、お寺参りは問題ありません。  
むしろお参りしてあげて下さい。

## 【べんずりさん】

本堂に入った左手に祀られている仏様は皆様に「べんずりさん」と呼ばれて親しまれています。正式には「寶頭盧尊者」(びんずるそんじゃ)といい、お釈迦様の弟子で、十六羅漢の一人に数えられており、神通力に優れていたそうです。お釈迦様から命じられて、涅槃に入らず、現世で衆生を救い続けておられます。“なで仏”として知られ、自分の身体の悪い所と像の同じ場所を撫でると、その神通力にあやかって治していただけると言われています。よく撫でられる所はすり減りも多く、お像を見るとやはり頭、腰、膝が多いようです。多くの場合、本堂の外陣が縁側に安置されており、東大寺大仏殿の手前にお像は大きく有名です。




せんいちえ  
千日会  
八月九日(日)

久美浜の夏の夜を彩る  
如意寺御本尊のお祭りです。

午後七時 本尊法要 千日護摩祈願

午後七時半 花火 灯籠流し 大文字焼き



## 「かぶと山」展望台が新築!



如意寺山門正面にそびえたつ「かぶと山」に、展望台が50年ぶりに新築されました。麓から徒歩30分以内で京丹後市一の絶景を楽しめます。好天の日にかがですか? 4月から頂上にNHKライブカメラが設置されます。(検索)

# ～「自分」とは…～

“自分”とは、自らに備わっている本分(価値)であるとか、「自然の分身」であるとか言われています。

人間だけでなく、あらゆる生命は宇宙の一部、大自然の一部分です。

「この世界には何という調和があるのだろう」と、物理学者であるアインシュタインも感嘆しています。雪や金属の整然とした結晶、春になれば桜が咲き、夏になれば百日紅が咲く。水は高さから低きに向かって流れる…。すべてが、定まった道理にしたがって寸分の狂いもなく動いています。

世界はそうなのに、その分身であるべき自分はこんなに乱れて苦しんでいる。1時間前に言ったことと正反対のことを口走ったり行動したりしている。ちょっとしたことで動揺して悩んだり悲しんだりする…。

しかし、何かの契機でこの宇宙の調和を、その分身であるこの私にも体现できることがあるのではないか。それが「解脱・悟り」の世界です。

ならば今の自分は本当の「我」ではない。もっとしっかりした「本当の自分」があるはずだということになります。しかし、悟りを開いても人間である以上、生きている限り迷い、間違い、苦しみます。つまり、自我の確立はなかなかできないのです。いや不可能というべきかもしれません。だから、どんどん変われば、だんだんよくなる。変わらなければよくなることもできない。変化するからこそ、病氣も治り、悩み事も解決するのです。その変化、向上する過程こそが人生そのものというべきなのでしょう。

ですから、人生を何かの目標に決めてしまうことをせず、自由に考えていけばよいのです。人生は短いようで長い、長いようで短くもあります。一度しかない人生を、何度でも見直せばよいのだと思います。



人生は何をやっても自由と書きましたが、自由すぎるのも生きにくいものです。

「仕事」も「趣味」も、一定の方向に〔心を指す〕ものがある方がよい、すなわち、ある程度不自由な方が生きやすいのです。だから“志”が必要となります。

“心を指す”ためには、行動を一定の枠にはめます。趣味の会に入る。1年に一回、全国大会に参加する。100名山登頂を目指すとか、謙虚になろうとか、人の話をよく聞こうなどというのも、立派な「志」です。自分なりの行を決めて実践すれば、そこから自分流の生き方が展開していくことでしょう。

人間とは困ったものです。やりたいことはやってはいけないことが多く、やるべきことはすべてやりたくないことばかり。歯磨きでも怠りたいのが人間です。(笑)

努力はがんばって育てなければいけないものですが、怒りながらがんばるのは怒りであって、向上心ではありません。

向上したり、安らぎを得るため、あわてず一歩ずつ歩みましょう。

それで間に合わないということは決してありませんから。

天下、春です。まず、楽しいことから始めようではありませんか。



## ことば

◆「この日再び来たらず」 ◆「ようこそ ようこそ。」

◆「春立つや愚の上にもまた愚にかえる」(一茶、還暦の元旦に詠う)

